

DENKEN WEEK IZUMI  
2023 vol.2



DENKEN ART

ARTIST

川井田 健晃(竹添邸)、北川 麦彦(竹添邸)、247 poko(税所邸)

EXHIBITION DATA

11.11<sub>sat</sub> - 19<sub>sun</sub>

会 期：2023.11/11(土)~19(日) 9:30~17:00  
入 場 料：一般 ¥510、小中学生 ¥300  
場 所：出水麓武家屋敷群および本町通り商店街

3名のアーティストが  
武家屋敷をキャンバスに  
武士が暮らしていた時代の  
「過去」と「未来」に軸を置き、  
異なる景色を創造します。

その他のイベント情報は  
公式インスタグラム  
で発信しています。



【出水麓・商店街エリア】

**DENKEN MARCHE**

日時：2023.11.11(土)・12(日) 10:00~16:00  
場所：出水市公会堂(出水市本町8-4)

**DENKEN POPUP**

日時：2023.11.18(土)・19(日) 10:00~16:00  
場所：WaDo Kagu(出水市本町8-4)

【DENKEN DINNER】

音楽とジビエとワイン

日時：2023.11.18(土)・19(日) 18:00~20:30  
場所：Restaurant izuru(麓町24-46)※事前予約制

<各イベント情報> DENKEN WEEKは、国の重要伝統的建造物群保存地区を舞台に地域の中にいると気づかないような、地域そのものもともと持っている魅力的な食文化や建物、街並みなどを地域内外の方に改めて気づいてもらうための取り組み。今回は新たな会場も増え、各会場で“これからつくるまちの景色”“あったかもしれないまちの景色”が見えるイベントになっています。ぜひ、出水のまち歩きをお楽しみください。

**【出水麓エリア】**  
DENKEN ART  
日時／2023.11.11(土)～19(日) 9:30～17:00  
展示作家／川井田健晃(竹添邸)、北川麦彦(竹添邸)、247 POKO(税所邸)  
場所／出水市公開武家屋敷「竹添邸」「税所邸」  
入場料／一般 ¥510、小中学生 ¥300  
※会期中、上記作家の作品はKurk Plant Leather(出水市本町23-7)にて販売。  
3名のアーティストが武家屋敷をキャンパスに武士が暮らしていた時代の「過去」と「未来」に軸を置き、いつもとは異なる景色を創造します。

DENKEN DINNER  
音楽とジビエとワイン  
日時／2023.11.18(土)・19(日) 18:00～20:30  
場所／Restaurant izuru(麓町24-46)(事前予約制)  
※予約サイトは近日公開予定



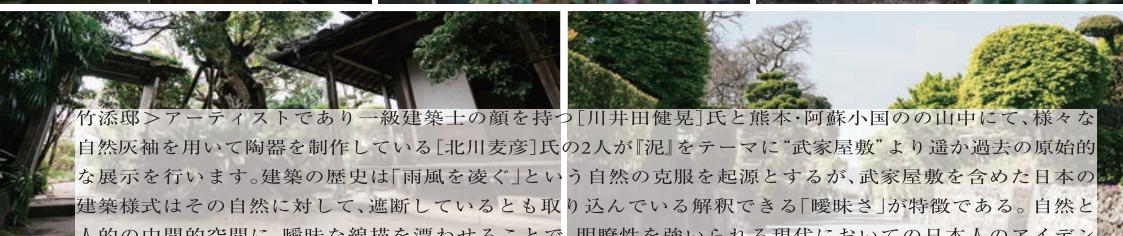
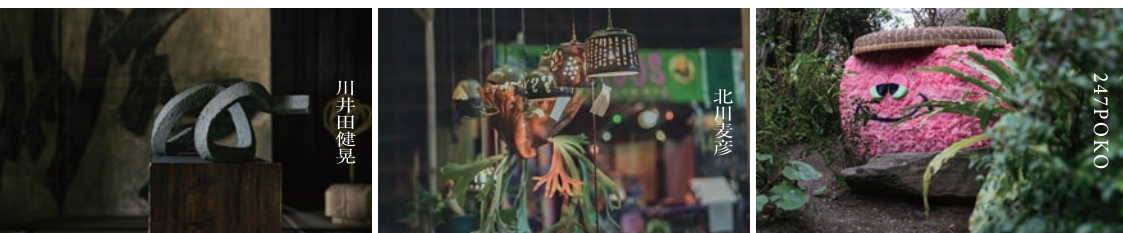
DENKEN CAFE  
日時／11.11(土)～17(金)  
11:30～17:00 カフェ営業  
17:00～19:00 ビストロ ※15日(水)は休み  
会場／Restaurant izuru(鹿児島県出水市麓町24-46)

**【商店街エリア】**  
DENKEN MARCHE  
日時／2023.11.11(土)・12(日) 10:00～16:00  
場所／出水市公会堂(出水市本町8-4)  
鹿児島県内外から食やクラフトのお店が一堂に会します。



DENKEN POPUP  
日時／2023.11.18(土)・19(日) 10:00～16:00  
場所／WaDo Kagu(出水市本町8-4)  
昭和初期に建てられた蔵をリノベーションして新たに出来た空間でPOPUP開催。

DENKEN ART  
日時／2023.11.11(土)～19(日)  
場所／すみとカフェ(ゴリョウ)、scAle(NONworks、Taru wo Shiru Products、Chan.WORKS)



竹添邸>アーティストであり一級建築士の顔を持つ[川井田健晃]氏と熊本・阿蘇小国のの山中にて、様々な自然灰袖を用いて陶器を制作している[北川麦彦]氏の2人が『泥』をテーマに“武家屋敷”より遙か過去の原始的な展示を行います。建築の歴史は「雨風を凌ぐ」という自然の克服を起源とするが、武家屋敷を含めた日本の建築様式はその自然に対して、遮断しているとも取り込んでいる解釈できる「曖昧さ」が特徴である。自然と人的の中間的空間に、曖昧な線描を漂わせることで、明瞭性を強いられる現代においての日本人のアイデンティティを再考したい。陶芸は“泥”を用いた人類の最も古いテクノロジーの一つであり、古代の人々の発展においても重要な産業でした。器で煮炊きを始める。その前に陶板にて文字、記号を伝達するというのが陶器の最初の使われ方といわれています。また現在でも時間を越えて当時の様子を覗くことができるのは陶板が時代を超えて残っているからです。その後、陶芸の文化は世界中でそれぞれの気候、風土に合わせて進化し、今も重要な産業やアートとしてあり続けております。

税所邸>鹿児島県出水市出身の現代アーティスト247POKO(ポコ)。日常にあるモノ、人、環境と共に日常の見えざらぬ隙間を作品を通して見えるようにする活動をしています。その中でもアイコン的なキャラクター“ファ”はほとんどの人の視界に入ってきては、忘れられない愛おしい存在です。今回の展示では『過去と現在の交差点』をテーマに武家屋敷のもつ“侘び寂び”に対して現代のトレンドである“映え”という概念(現代的な差し色)を入れ込み過去と現在が共存してる空間を作ります。もしも、武士が現代にも存在していたらSNS(InstagramやTikTok等)をしていたらどんな生活様式になっていたのでしょうか? 当時の憧れであった“侘び寂び”という言葉と“映え”という言葉に変換する『時間軸のギャップ』を楽しんでいただきたいです。

247poko『ブケヤーデコるのマジ上がる。調子良い。』

STAMP RALLY

1	2	3
---	---	---

スタンプは地図掲載の赤印の場所にて捺印が可能です。3つ集めたらRestaurant izuruにてプレゼント応募用紙と交換いたします。

詳しくはDENKEN WEEK IZUMI公式インスタグラムをご覧ください。@denkenweek\_izumi